



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年11月11日 第944号「週刊五十嵐レポート」

プラン変更

11月7日、ワールド・ボクシング・スーパー・シリーズバンタム級決勝戦、井上尚弥選手とノニ・ドネア選手(フィリピン)をテレビ観戦した。試合的には面白かったが、あの強い井上選手があんなに苦戦するとは思わなかった。

翌日の記者会見を見ると、1回終了時には早い回での決着(KO勝ち)になると想定した。しかし、2回にドネア選手の左フックを右目に受けた。井上選手は瞬時に、早期KO勝ちから12回戦い、判定で勝つポイント稼ぎにプランを変更した。セコンドの助言ではなく、自分で決めたところに驚く。自分で戦っていながら、頭は冷静。プランを変更できる引き出しがある。日頃の準備がなくてはそんな芸当はできない。

6回終了後、井上選手は、ポイントをとっているかどうか確認。リードしていると確信して、7~9回は捨てて、10~12回に攻勢に出るプランに修正する。試合全体を把握して、流れを見る。但し、9回にドネアから右ストレートを受け、井上選手の膝が落ちかけ、自らドネアにクリンチをした。こんな光景見たことがない。本当のピンチ。井上選手の言葉では、「打たれた瞬間、息子の顔が浮かんだ。それで持ちこたえることができた」と。最後の砦は、「家族」。

11回に左ボディーを打って、ダウンを奪い、その勢いで12回を終え、判定で勝った。ドネアの体力が落ちるのを待って、狙っていた。変更されたプランを実行した。更に驚くのは、右目は骨折していた。右目ではドネアが2人いたというぐらい異常だった。それを相手に察知されないように隠し通した。

「兵は詭道(きどう)なり」(孫子の兵法)。戦争の本質は「偽りの方法」である。敵の裏をかいたり、意表を突いたり、偽りの作戦を展開する。または相手に悟られないように隠密で動く。

今回の試合で、井上選手のただ強い選手ではなく、瞬時にプランを変更でき、冷静に試合の流れを読み、相手を騙すことができる知性の高い選手であると証明した。

学ぶべき点は多々あった。それにしてもすごい。

ちょっと
気をつける出来事

先日、TV番組で文部科学相が「身の丈に合わせて勝負にして頑張ってもらえば」という発言が問題に。教育格差を是認する発言と。

私は、「身の丈に合う」言葉自体は、悪い言葉ではないと考えている。

辞書で調べると、「身の丈に合ったという形で、無理をせず、力相応に対処すること。分相応」と書かれている。

例えとして、「身の丈に合った経営」「身の丈に合わせた生活を送る」「身の丈を超える過大投資」「身の丈外交」など。

私は社長塾を12年行っているが、まずは潰れない会社作り。次に強いものづくり。そして高収益企業へステップアップ。小さな会社は弱者の戦略を遂行する。そのためには、自社の身の丈を知る。自社を知る。特徴あるものは何か。その特徴を磨いて、「強いもの」に育てる。いずれ「一番」になる。プロセスを踏んでいく。その時々「身の丈」はある。「身の丈」を逸脱すると、破綻する危険性が出てくる。

ちなみに昨年、秋篠宮様は大嘗祭について「身の丈に合った形で行うのが本来の姿ではないかな」という発言をされている。



一口メモ
知識

一切の概念から解放される

智慧があるというのは、心の中に先入観や価値判断がなく、さまざまな概念で固まっていないことなのです。

一切の概念から心が解放された状態です。

価値判断にしがみついたり、知識にしがみつくと、

心は柔軟性を失って固く狭くなります。

その心には、新しいものは何もありません。

智慧のある人の心には、何でも入ります。その瞬間に判断もできます。

しかし、それによって執着することなく、また空にもどるのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

株五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

